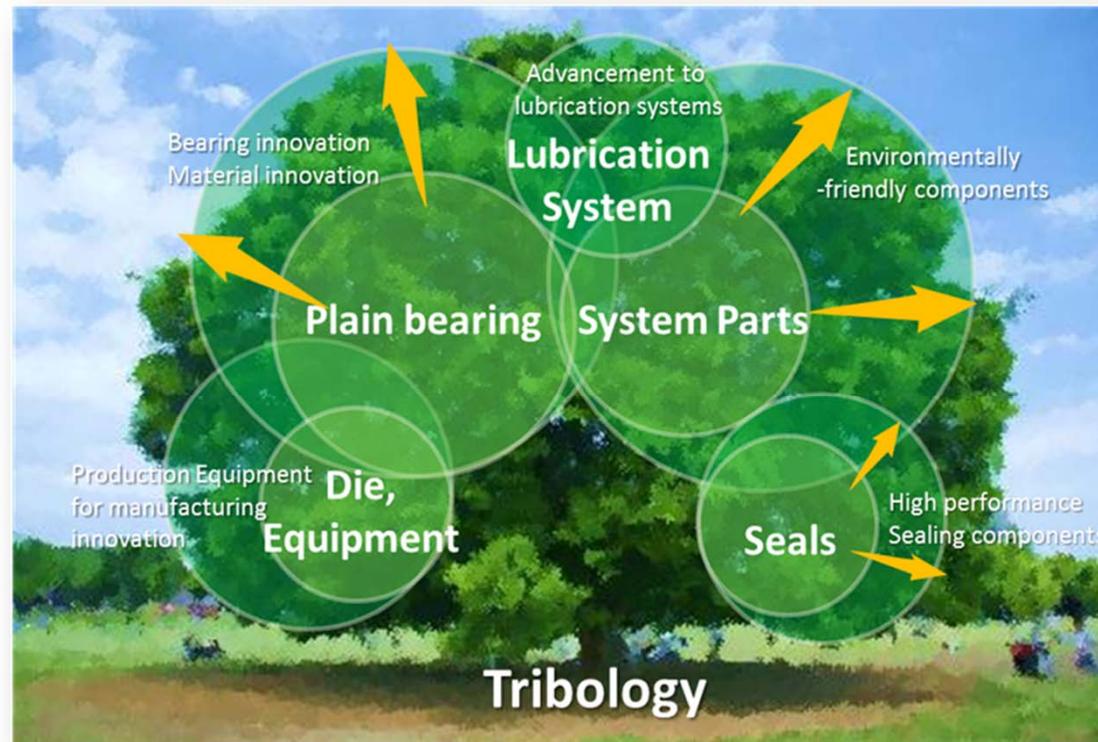


2019年3月期 決算説明会

2019年5月28日



 大豊工業株式会社

将来見通しに関する注意事項

このプレゼンテーション資料に記載されている当社業績見通しは、現時点で把握している情報に基づき、当社が判断したものです。実際の業績は、今後の経済動向、市場の需要、為替レートの変動、税制や諸制度など、様々なリスクや不確定要素に左右されます。従いまして、実際の当社業績は見通しと異なる結果になる場合があることを、あらかじめご了承ください。

投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願いいたします。

当プレゼンテーション資料に掲載された情報に全面的に依拠して投資判断を下されることはお控えくださいますようお願いいたします。

目次

1. 2019年3月期 実績

2. 2020年3月期 計画

3. 将来の見通しと取組み

2019年3月期 決算の概況 <連結>

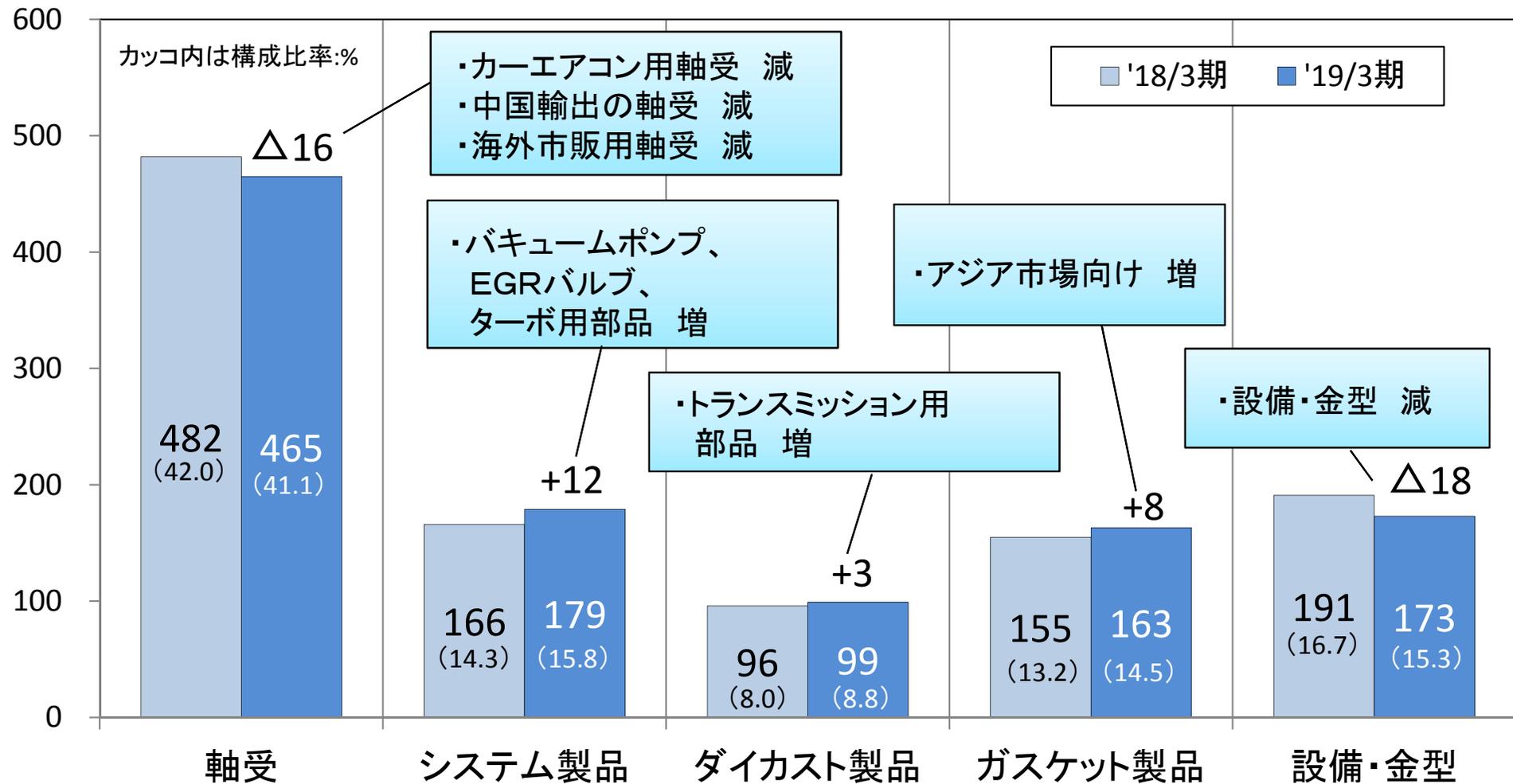
(単位:億円 以下切り捨て)

	前期実績比				公表値比('18/10修正値)			これまでの 最高業績
	'19/3期 実績	'18/3期 実績	増減	増減率	'19/3期 公表値	増減	増減率	
売上高	1,134	1,146	△12	△1.1%	1,130	4	0.3%	1,146 ('18/3期)
営業利益	48	68	△19	△29.2%	50	△2	△3.7%	68 ('18/3期)
経常利益	47	67	△20	△30.6%	49	△2	△3.9%	67 ('18/3期)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	30	42	△11	△27.4%	33	△2	△6.4%	44 ('17/3期)
為替レート	111円/\$ 128円/€	110円/\$ 129円/€	+1円/\$ △1円/€	—	110円/\$ 130円/€	+1円/\$ △2円/€	—	

前期比で減収減益、修正公表値はほぼ達成

2019年3月期売上高 =製品別= <連結>

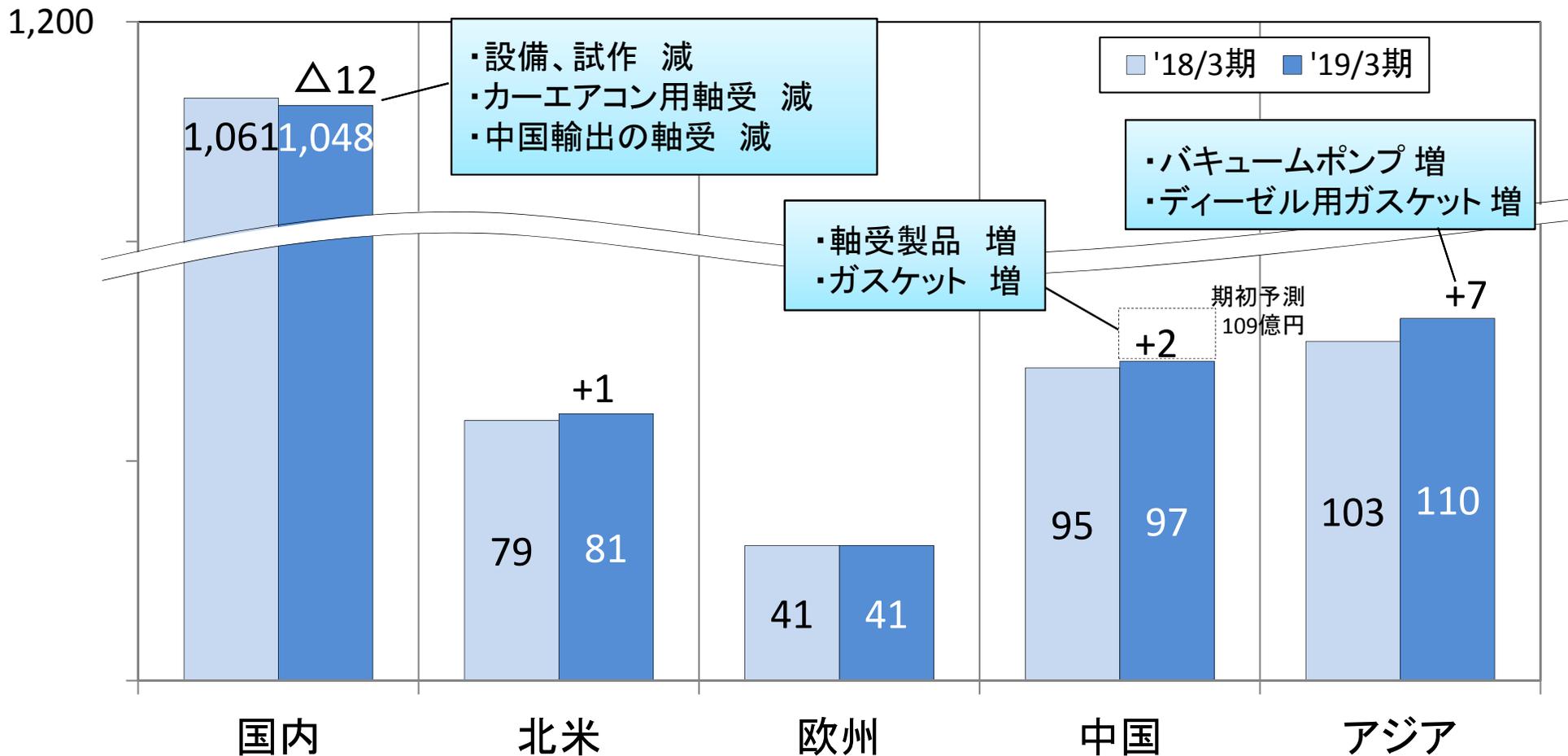
(億円)



- ・中国市場の減速により軸受製品が減収、その他の部品事業は堅調
- ・設備・金型事業は受注減

2019年3月期売上高 =地域別= <連結消去前>

(億円)



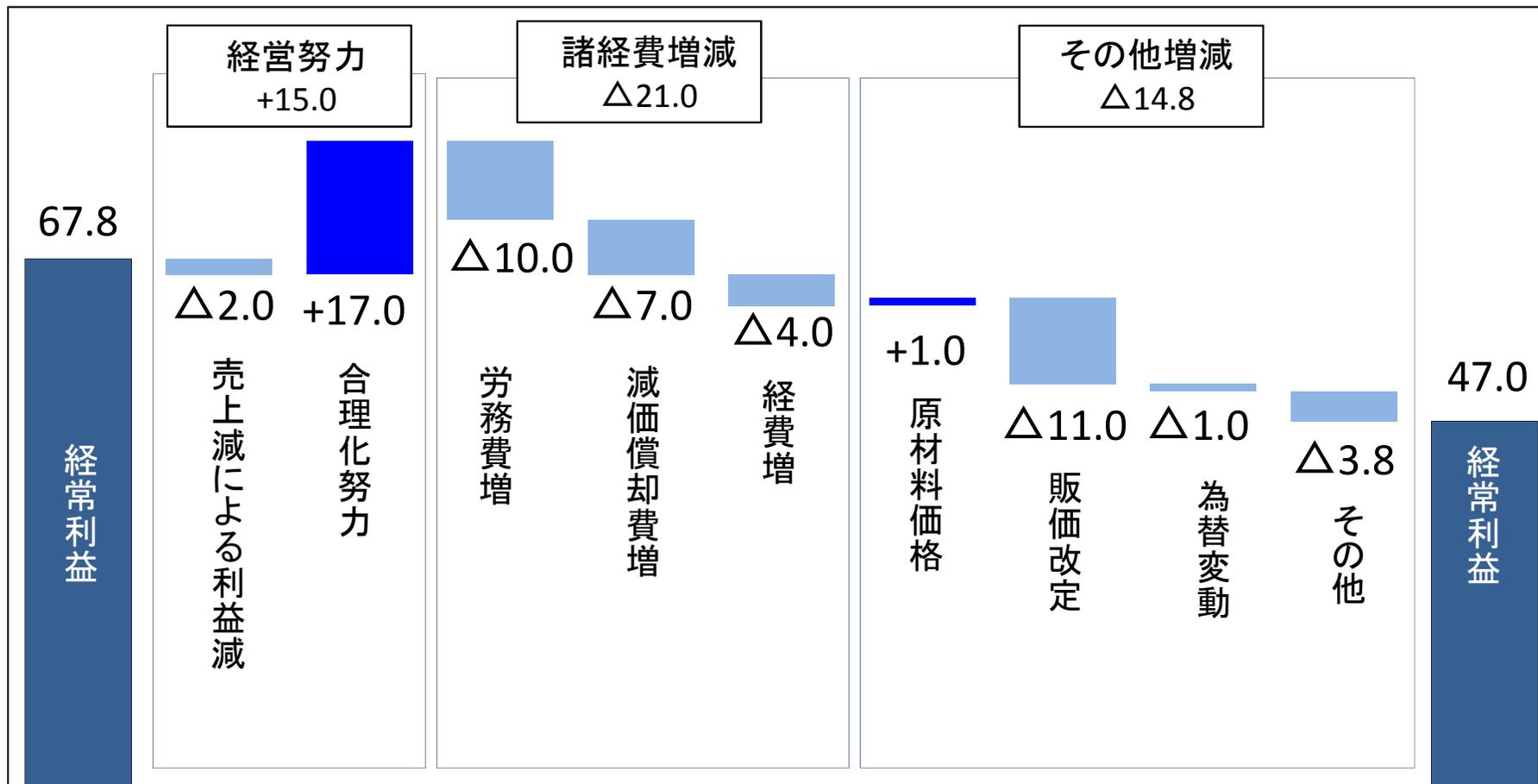
<国内> 設備、試作の減、中国向け輸出製品で減

<中国> 下期低迷で微増

<アジア> ディーゼル用製品で増

経常利益増減要因(前期比) <連結>

(億円)



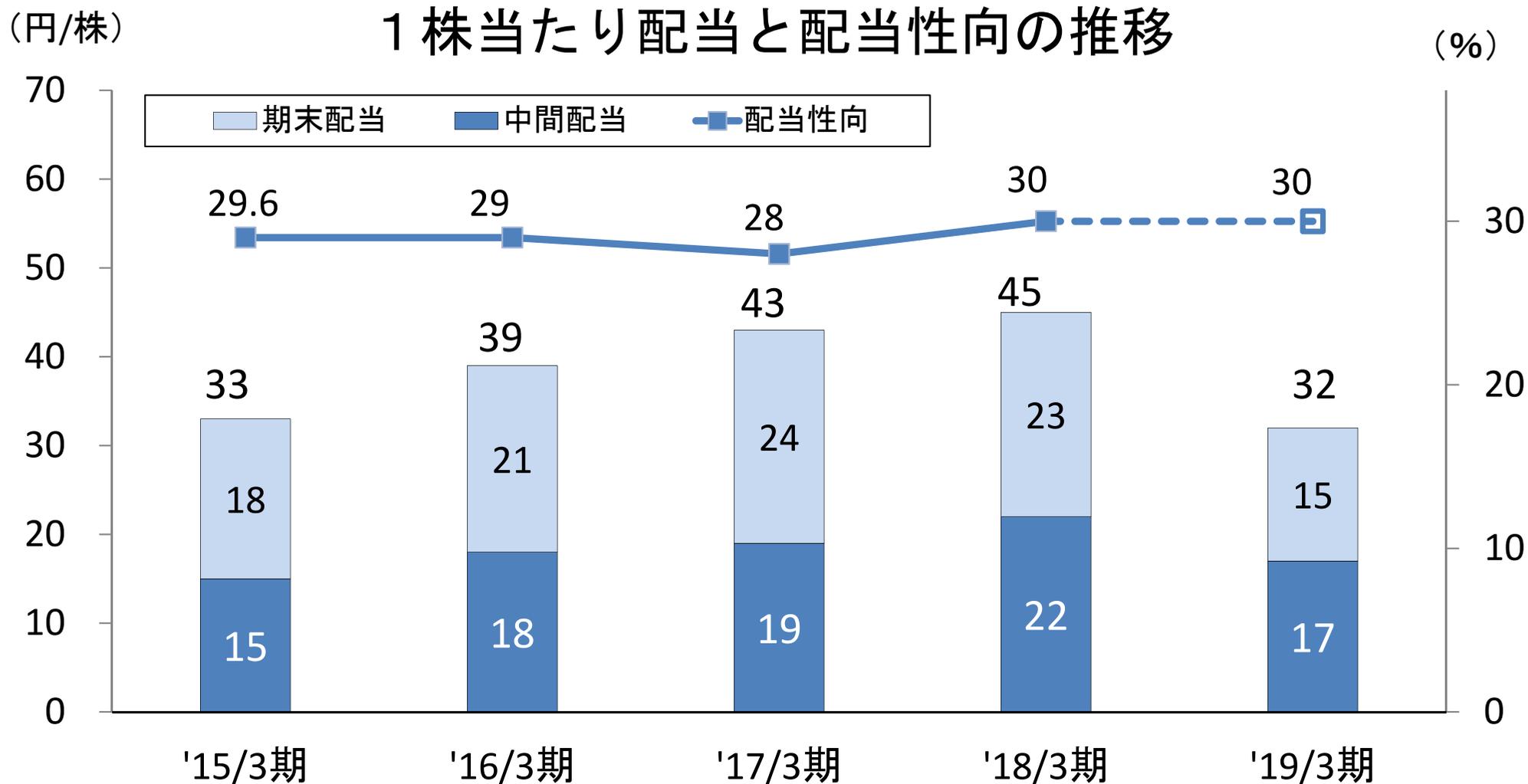
'18/3期

20.8億円 減益

'19/3期

合理化努力でカバーできず、グローバル生産量拡大による
労務費、減価償却費の増等により減益

株主還元



配当性向30%を維持し、長期安定的に株主様へ還元していく
'19年3月期は設備事業の動向を踏まえ、32円/株へ修正

1. 2019年3月期 実績

2. 2020年3月期 計画

3. 将来の見通しと取組み

2020年3月期 通期業績計画 <連結>

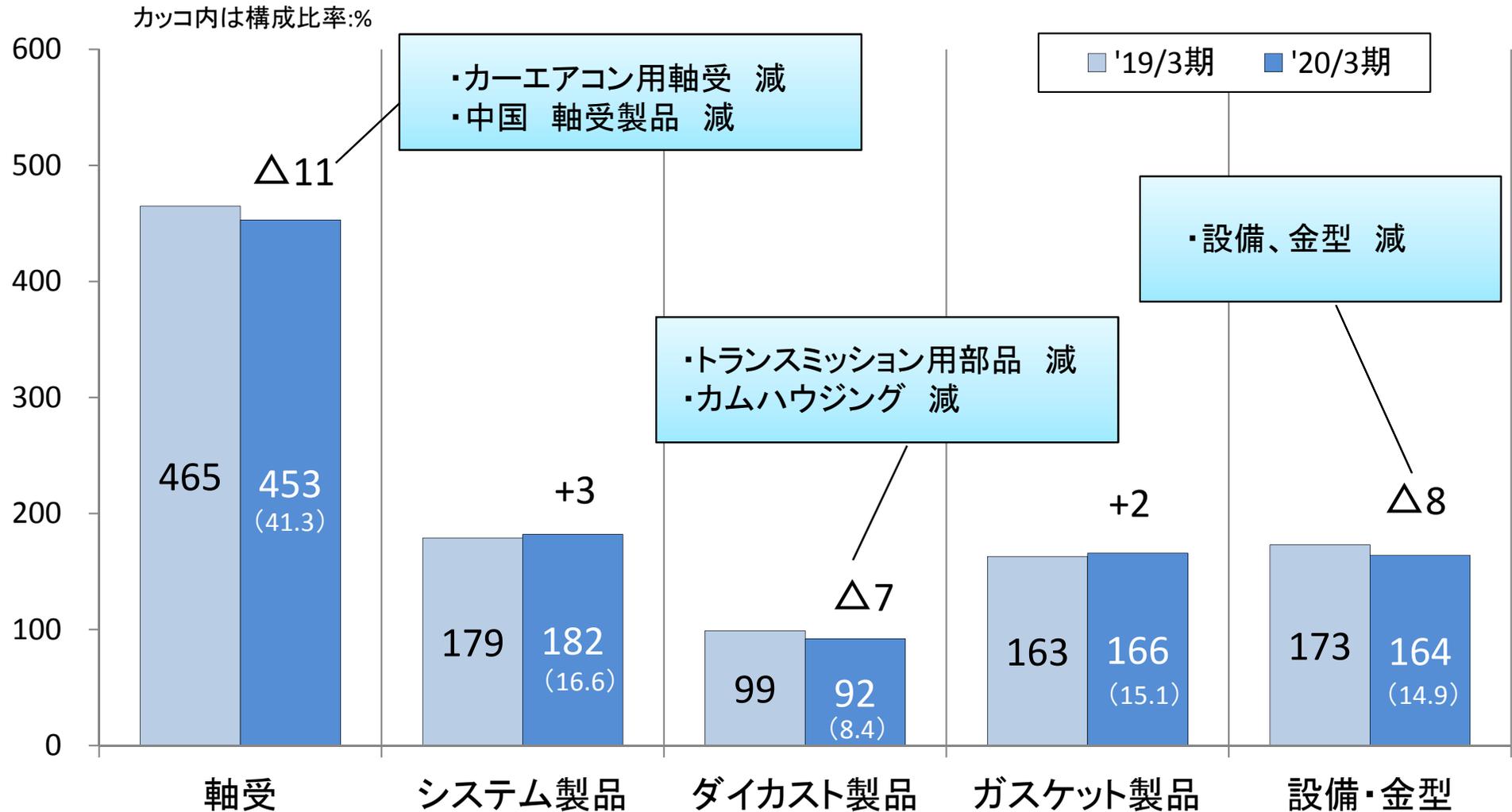
(単位:億円 以下切り捨て)

	通期計画 前期比			
	'20/3期 通期計画	'19/3期 実績	増減	増減率
売上高	1,100	1,134	△34	△3.0%
営業利益	33	48	△15	△31.5%
経常利益	32	47	△15	△32.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	22	30	△8	△28.7%
為替レート※	110円/\$ 125円/€	111円/\$ 128円/€	—	—

中国市場低迷と設備事業低迷を予測し、
前期比で減収減益

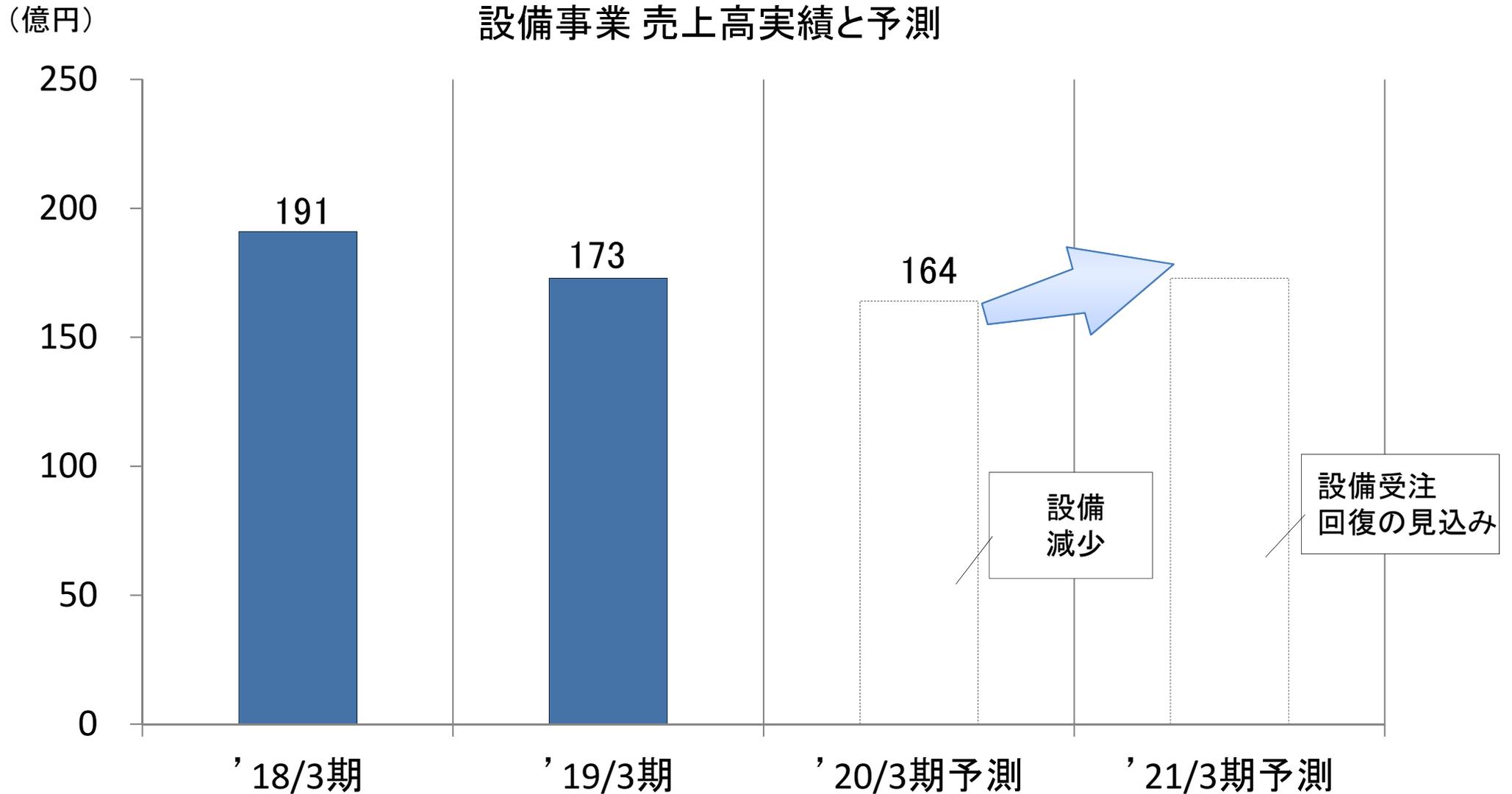
2020年3月期売上高計画 =製品別= <連結>

(億円)



中国市場低迷により軸受、ダイカスト 受注減
モデルチェンジの一段落により設備・金型の受注減

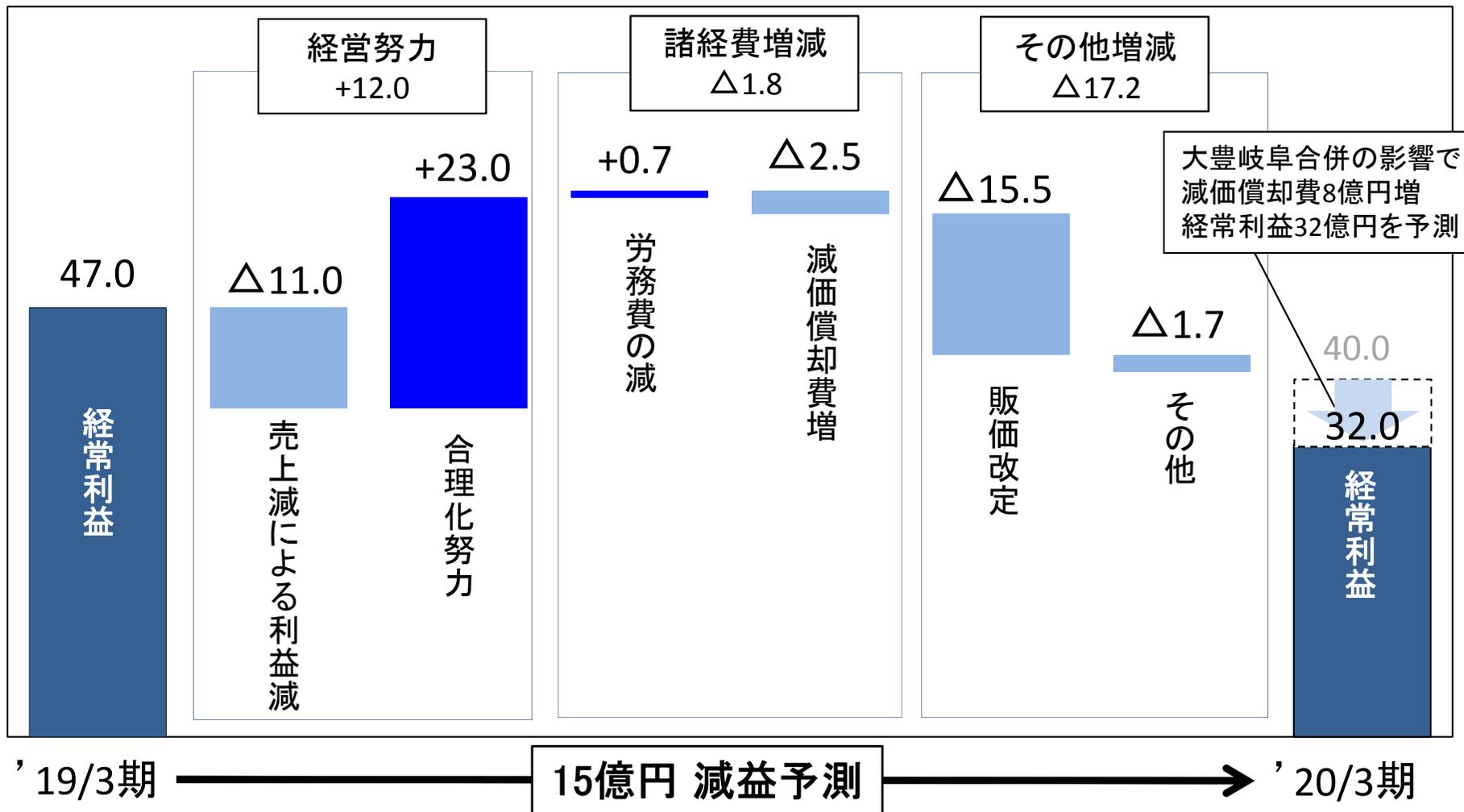
設備事業の状況



主に海外向けの設備受注により、
'21/3期より収益回復を見込む

経常利益増減予測(前期比) <連結>

(億円)



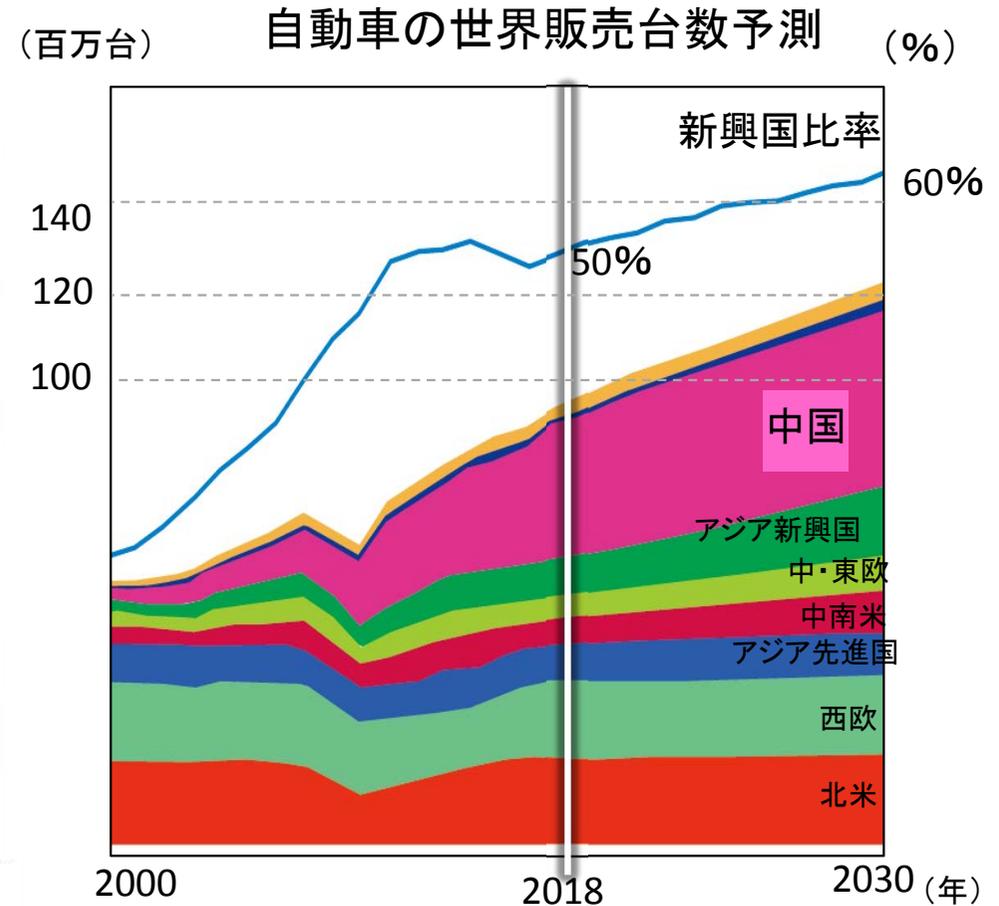
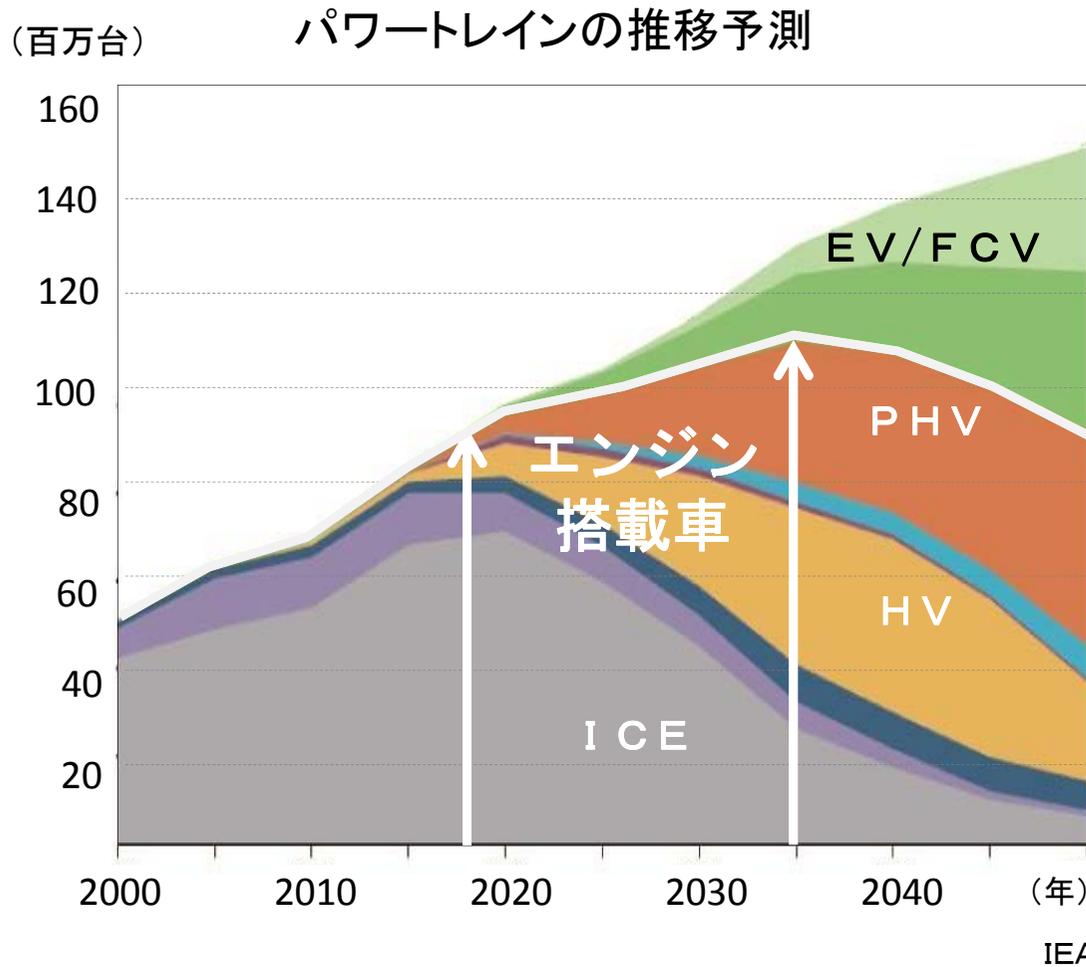
引き続き合理化を進めるが、販価改定と大豊岐阜合併による減価償却費の増をカバーできず減益を予測

1. 2019年3月期 実績

2. 2020年3月期 計画

3. 将来の見通しと取組み

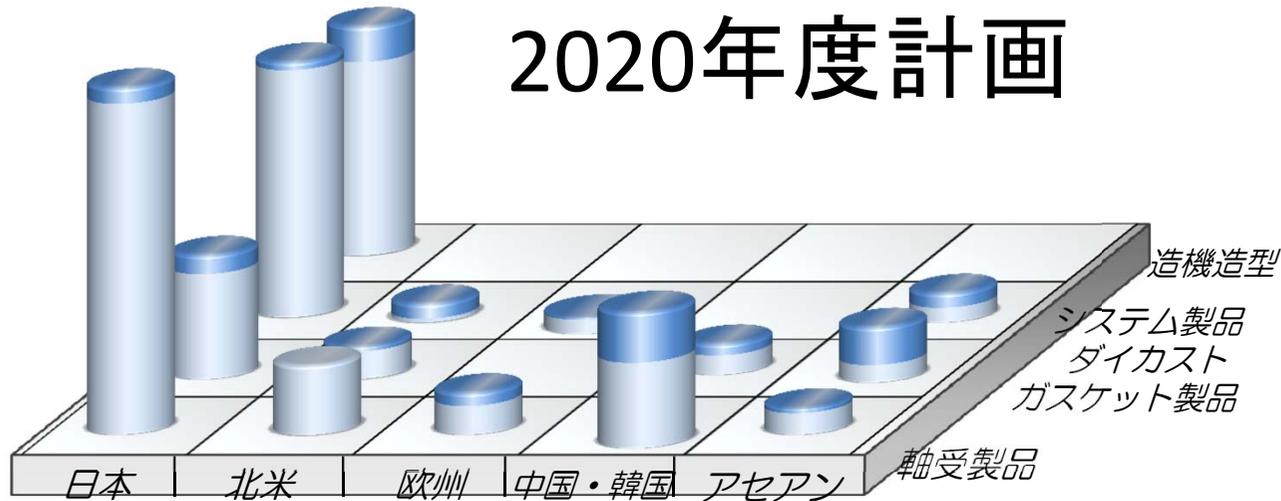
自動車市場の動向と予測



- ・エンジン搭載車はHV、PHVなど多様化しながら拡大していく
- ・貿易摩擦で不透明な状況だが、中国が中心となって自動車市場を牽引すると予測

大豊工業の取組み (VISION2020)

2020年度計画

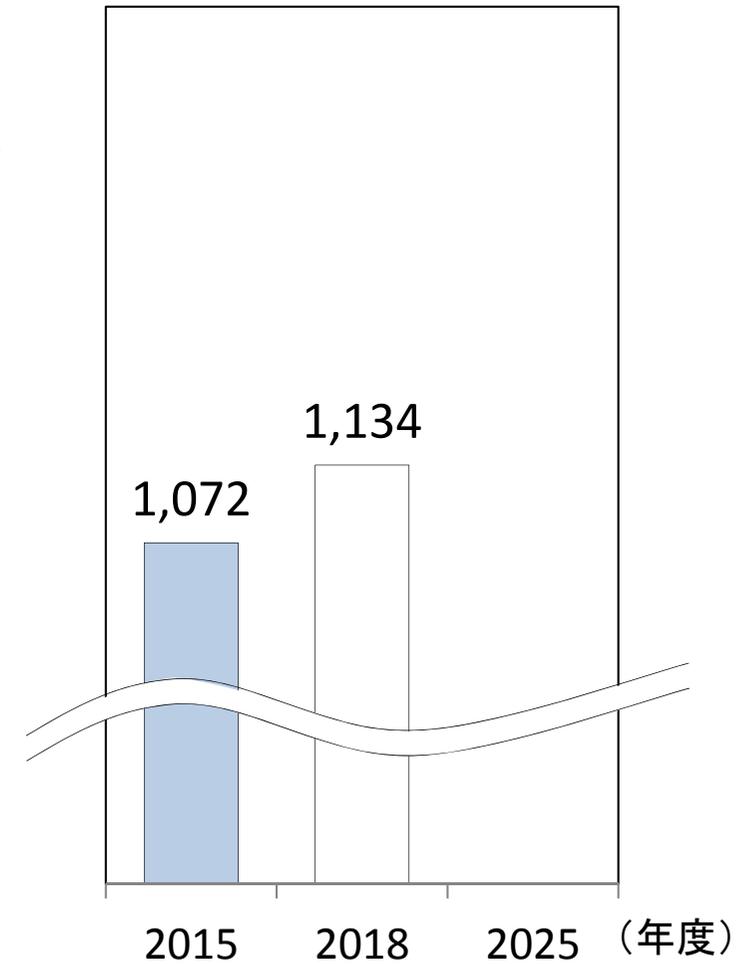


2015年度



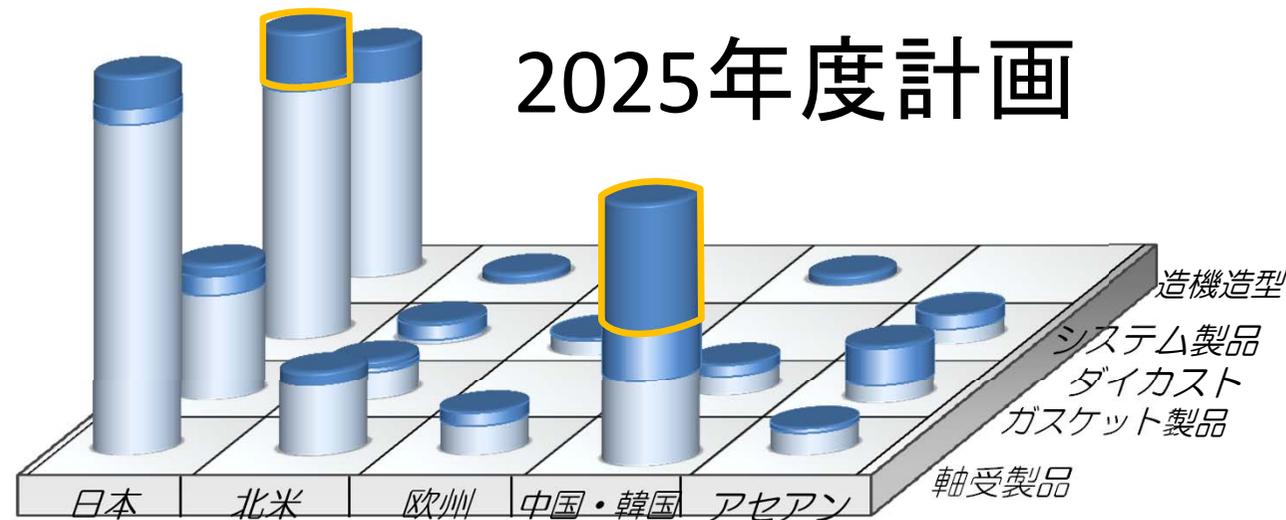
連結売上高

(億円)

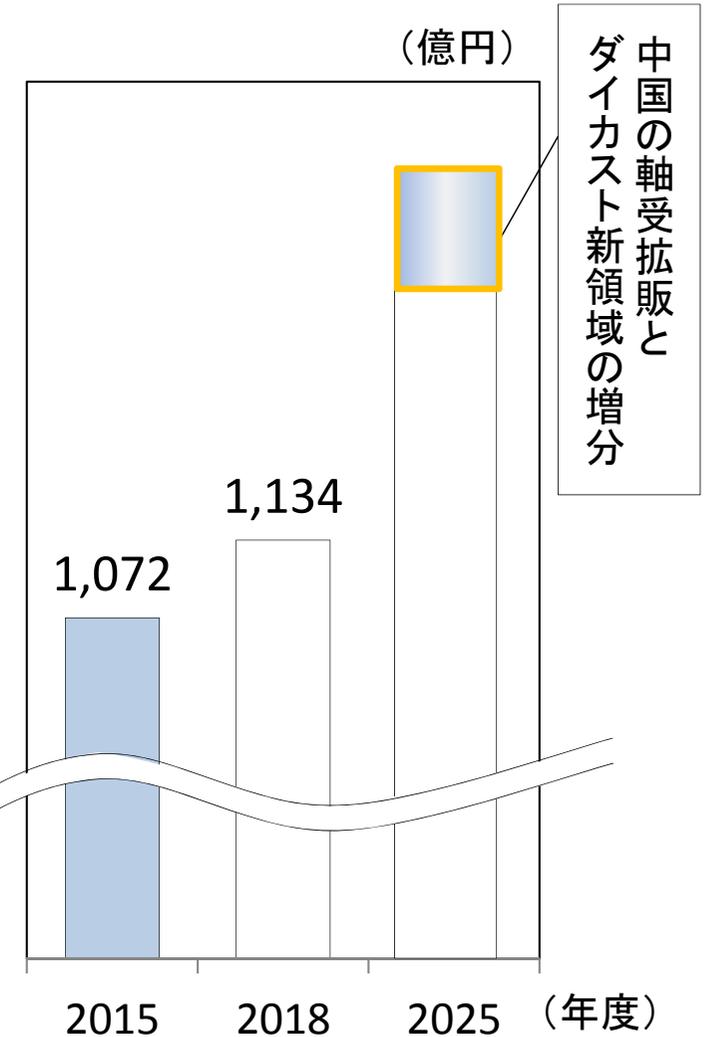


VISION2020の中でグローバルに拡販を図り、
既存事業のシェア拡大を推進

大豊工業の取組み(～2025年)



連結売上高計画

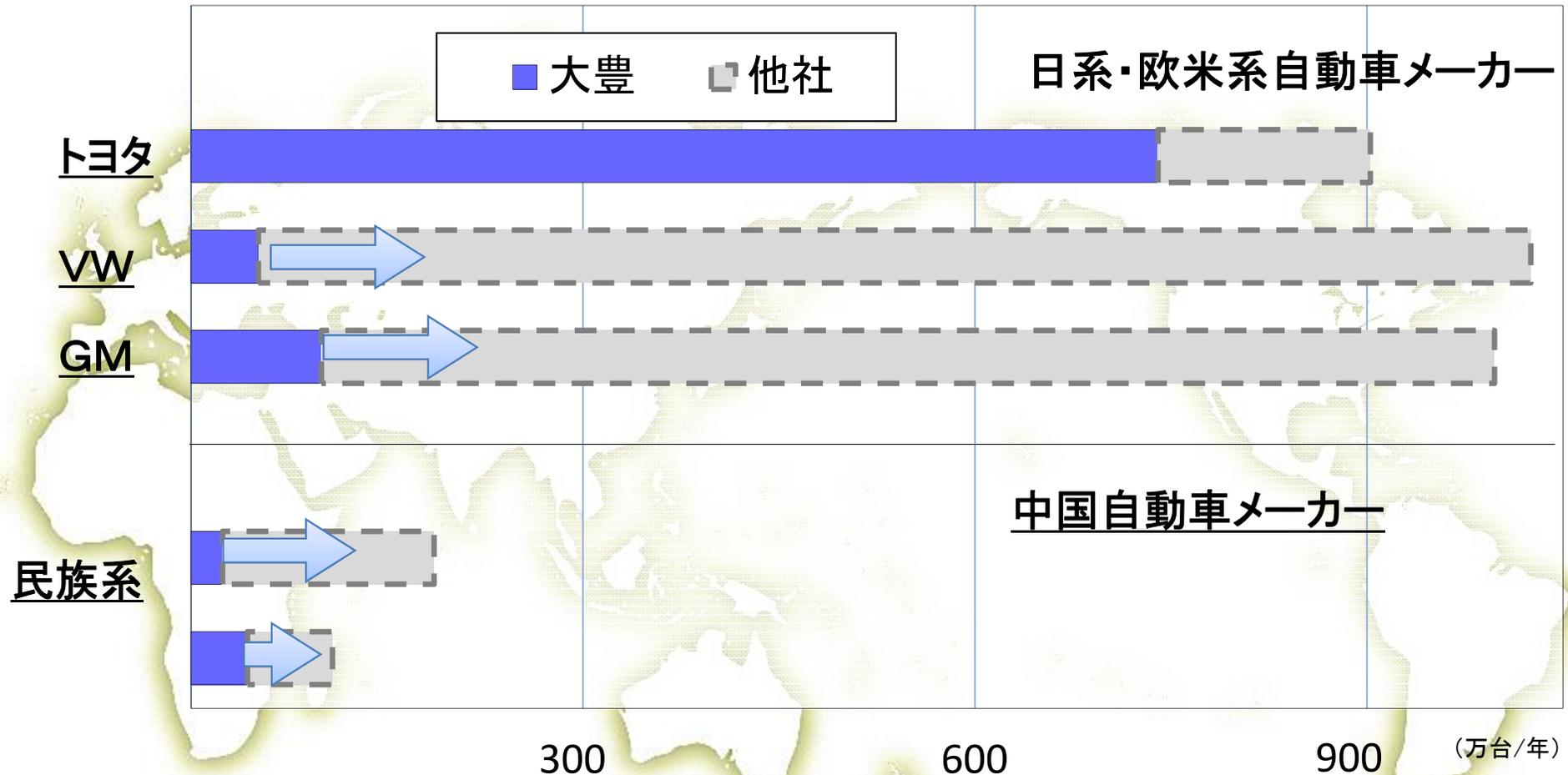


中国市場を中心に軸受拡販を継続しつつ、電動化対応等のダイカスト新領域を着実に推進していく

エンジン用軸受の取組みについて (中国市場)

エンジン用軸受の拡大

グローバル市場の主要顧客におけるエンジン軸受シェア



伸び代のある中国市場の民族系メーカーおよび
既存顧客の欧米系メーカーでシェア拡大を図りながら、
トヨタおよび国内主要メーカーのシェアを堅持

中国ビジネスの取組み

中国市場の背景

- ・中間層が増加し、販売台数 3,000万台/年を超える見通し
- ・民族系メーカーが低価格とSUVで中間層を取込み成長中
- ・群雄割拠から淘汰の時代へ 民族系も品質とブランドイメージ向上が必須

ガソリンエンジン： 耐久性向上、低燃費化
ディーゼルエンジン： 排ガス基準 国6規制(chine6) 対応

当社のエンジン用軸受技術

ガソリンエンジン

- ・樹脂コーティング
⇒低フリクション、耐摩耗性に優れ、低燃費化に貢献

ディーゼルエンジン

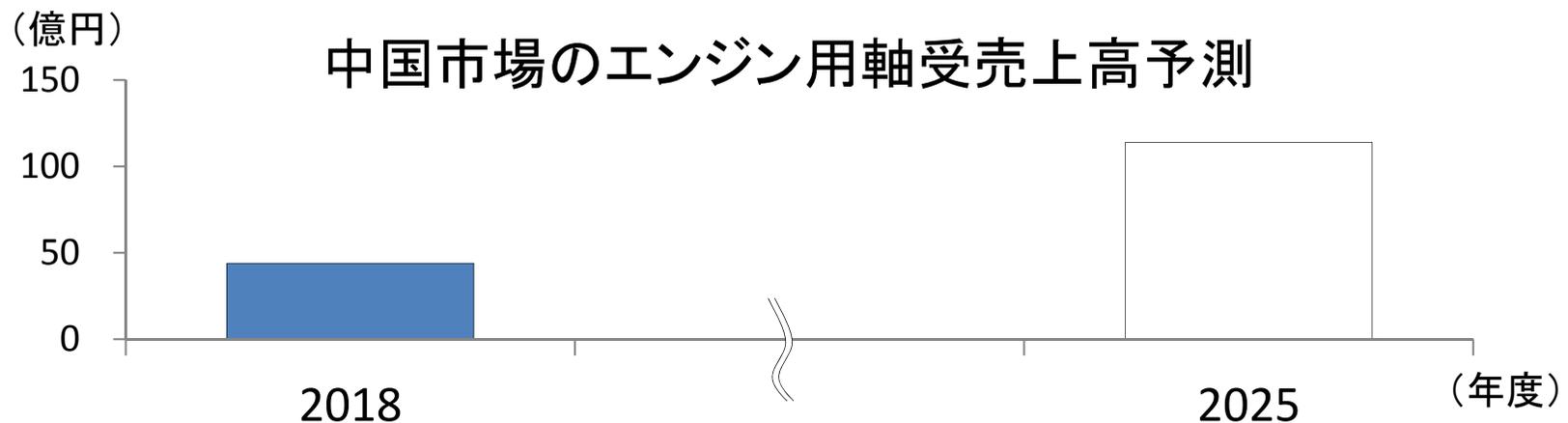
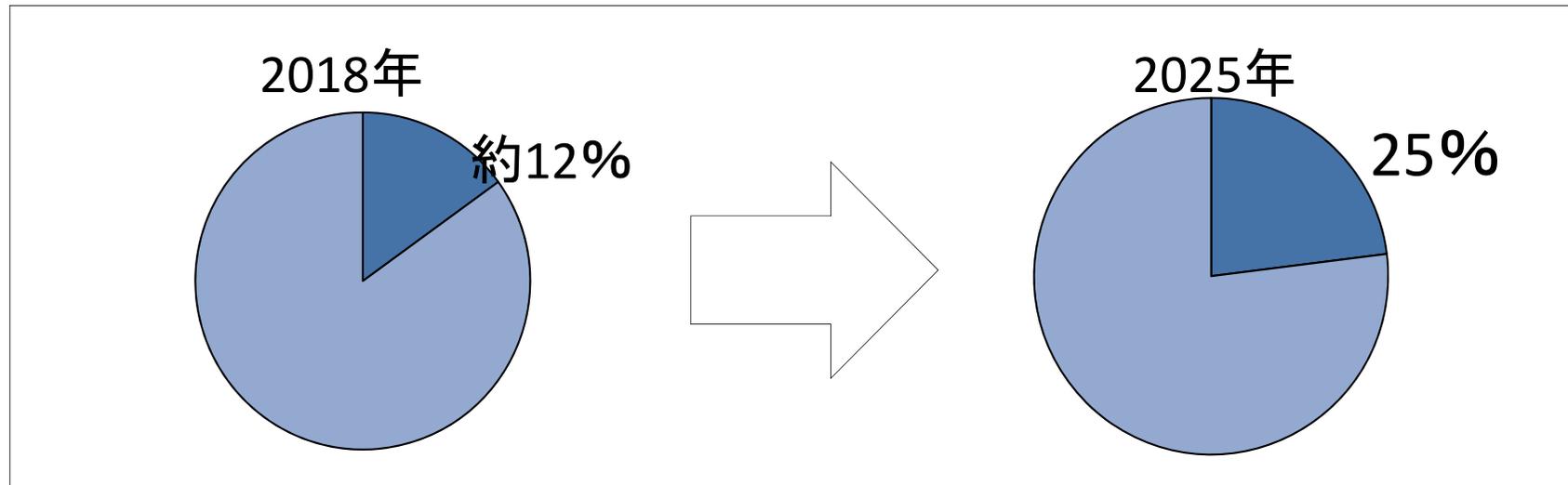
- ・ビスマス、樹脂コーティング
⇒高強度、耐焼付き性、耐熱性に優れ、高筒内圧化に対応



品質向上を目指す民族系メーカーに当社軸受を提案
客先ニーズに貢献し、受注拡大の活動を推進

中国ビジネスの活動状況

中国市場でのエンジン用軸受シェア目標



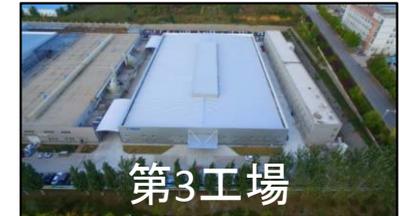
欧米系、民族系の拡販により、中国市場で
着実にシェアを拡大し、収益向上を図る

中国ビジネスの活動状況

生産拠点の強化

TCY(すべり軸受加工メーカー: '02年買収)

- 2016年 樹脂コーティングラインを導入
高性能ガソリンエンジンに対応
- 2018年 第3工場竣工 生産スペース確保



WBM(軸受材料メーカー: '12年買収)

- 2018年 アルミ鋳造ラインを導入、日本と同一品質の
軸受材料を供給開始



中国で材料から加工までの一貫生産体制を構築
高性能エンジン用軸受の生産強化と合理化で収益向上を図る

販売拠点の強化

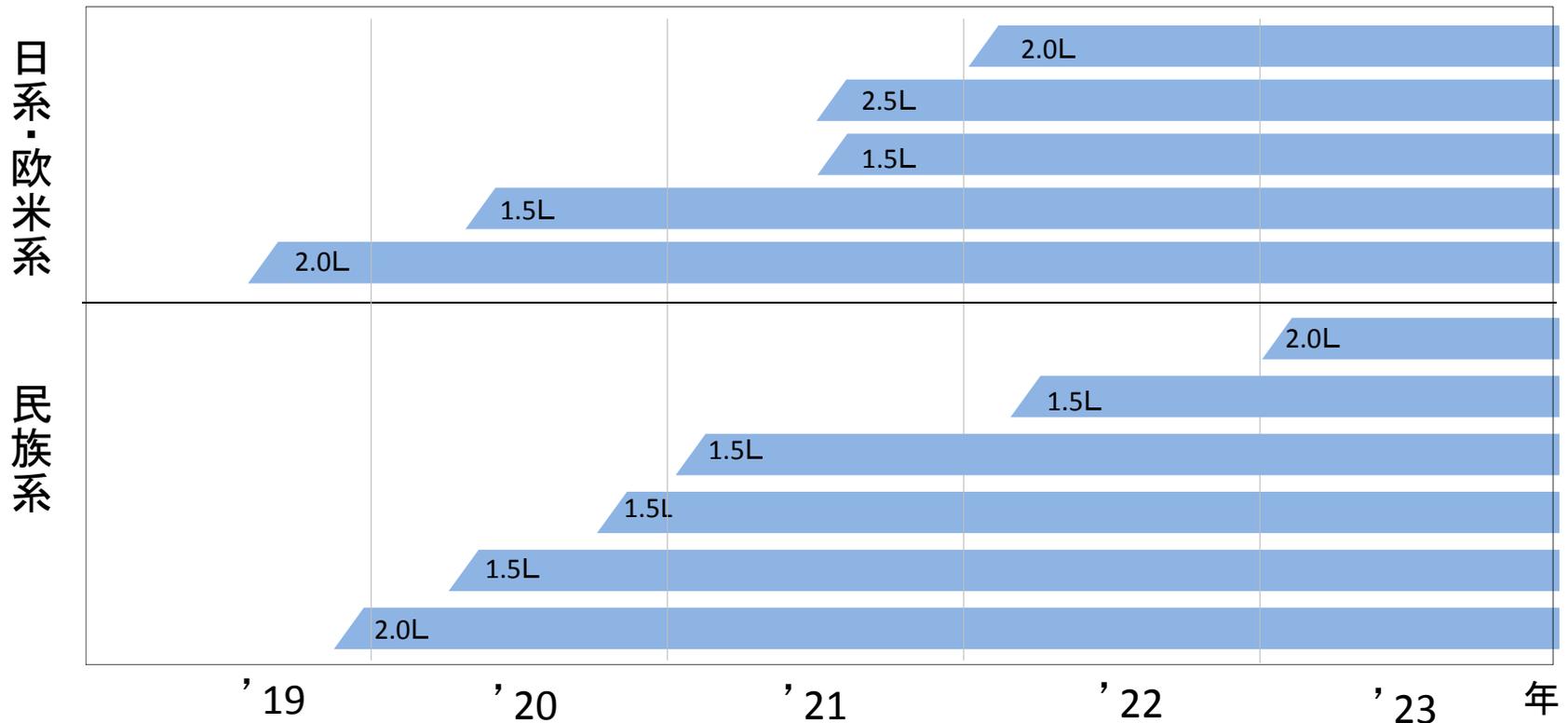
常州事務所 '18年新設

お客様の近くに事務所を新設
コミュニケーションを深化し、大豊ブランドの浸透を図る

中国ビジネスの活動状況

エンジン用軸受の新規立上げ計画(TCY)

欧米系、民族系メーカーからガソリンエンジン用軸受の受注増



拡販、生産体制強化の活動により、'20年以降、
日系・欧米系メーカーをはじめ民族系メーカーへの
軸受が増加する見通し

新領域の取組み

新領域の取組み

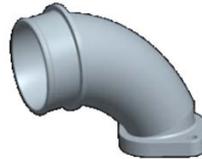
既存事業を強化して原資を稼ぎ、新領域ビジネスを実現する

	バッテリー	コンバータ/インバータ	モータ/トランスアクスル	燃料電池	
大豊グループコア製品	軸受	銅粉末焼結技術 圧接・めっき技術	圧接・めっき技術	樹脂コーティング技術 しゅう動材料技術	
	システム ・排気バルブ ・ポンプ ・ターボ アルミダイカスト	—	熱マネジメント技術 (冷却) 薄肉 軽量化 新材料開発技術	熱マネジメント技術 (冷却) 流体制御技術 薄肉 軽量化	
	樹脂成形	樹脂インサート 成型技術	樹脂コーティング技術	抄造技術 樹脂インサート成型技術	樹脂成型インサート技術 強度計算解析技術
	シール	メタルシール技術	メタルシール技術	メタルシール技術	メタルシール技術

- ・大豊グループのコア技術で、新事業・新製品領域を創出
- ・新規事業を加速するため「G-TSR推進室」を新設
- ・電動化でアルミダイカスト製品に付加価値(軽量化、熱マネジメント等)

新領域の取組み =ダイカスト製品=

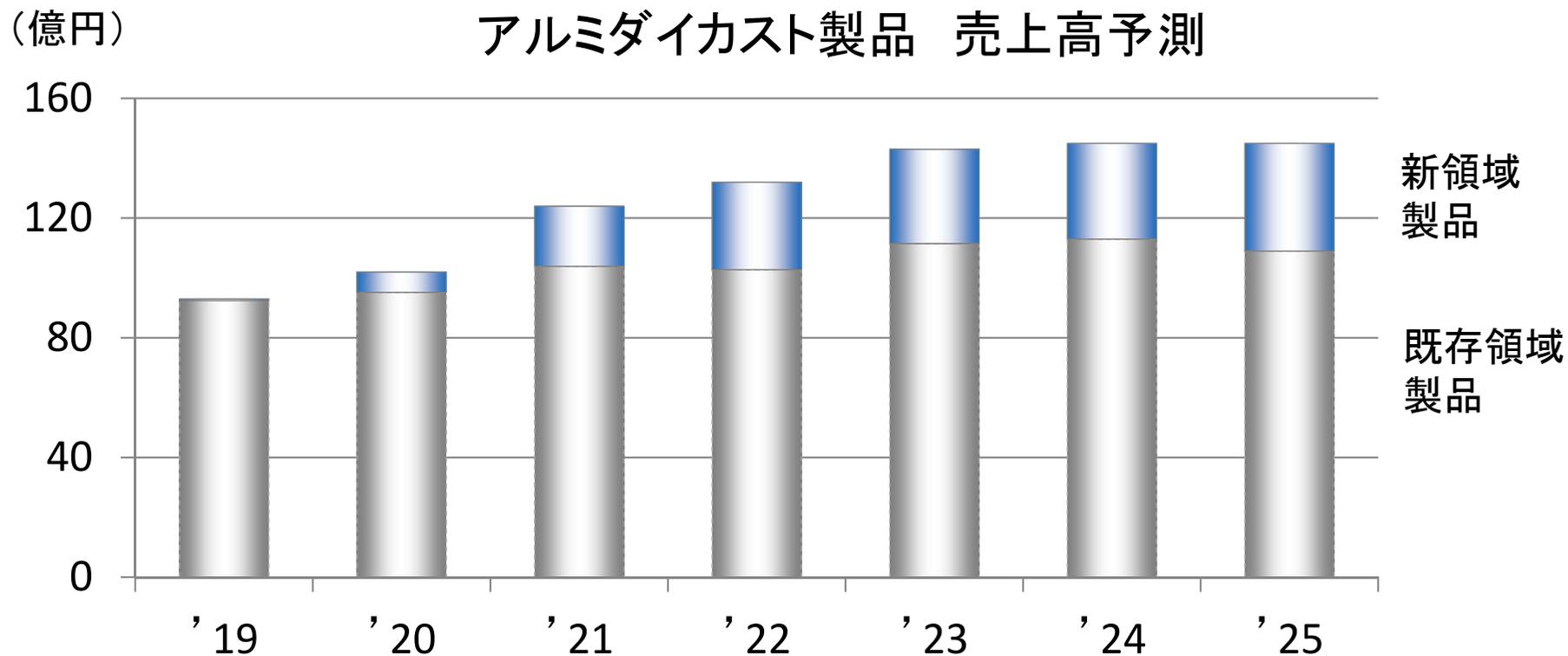
ダイカスト製品構成の変遷

年代	'70	'80	'90	'00	'10	'20	
製品	<p>★一般部品</p> <p>'69 ホールハブ '69 クランクケース</p> <p>★耐圧気密部品</p> <p>'72 コンプレッサ ハウジング</p> 	<p>★複雑部品</p>  <p>'82 ボディカバー</p> <p>★超薄肉部品</p>  <p>'89 コンピュータハウジング</p>	<p>★高強度</p>  <p>'95 スクロール</p>  <p>'96 バレル シリンダー</p>	 <p>'98 OCV スリーブ</p> <p>★超耐圧・気密部品</p>  <p>'99 ABSハウジング</p>	 <p>ミッション用ピストン</p>  <p>ヘッドカバー</p>  <p>'03 カムハウジング</p>	 <p>'14 FC プレッシャープレート</p>  <p>'13 デフキャリア</p>  <p>'14 エルボ コンプレッサ</p>	
工法	<ul style="list-style-type: none"> 高速高圧鋳造法 	<ul style="list-style-type: none"> 局部加圧鋳造法 減圧鋳造法 		<ul style="list-style-type: none"> 超低速鋳造法 	<ul style="list-style-type: none"> 回転鋳抜き製法 置き中子製法 		

HV、EV、FCV部品の需要拡大

エンジン/駆動系部品が中心だったが、HV、EV、FCV部品へシフト
電動化でアルミダイカスト事業領域の拡大を目指す

新領域の取組み =ダイカスト製品=



既存製品を維持しつつ、新領域の需要増を予測

設計から量産までのスピードを上げ、お客様ニーズに迅速に応え、
新領域を着実に受注するため、BRダイカスト室(開発+生産技術)を新設

'18年度の主な表彰について

お客様からの評価

トヨタ自動車から、技術開発賞、部品標準化賞を受賞（'19年4月）

技術開発賞



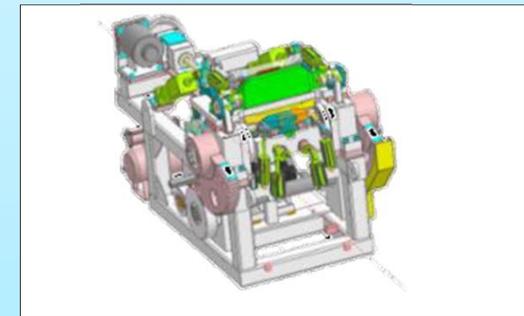
大幅に生産性を向上させた「スマートライン」コンセプトのエンジン軸受加工ラインの開発により受賞

部品標準化賞



品番削減など生産性を向上させたロール式バランスウェイトの開発量産により受賞

技術開発賞



子会社 大豊精機がコンパクト電動パイプ曲げ成形機の開発により受賞

バランスウェイトとは

【前提】

タイヤとホイールは、製造過程で重量の偏りが生じてしまう。

【バランスウェイトの役割】

ホイールにバランスウェイトを装着することで重量バランスを均一化。
走行時のタイヤのブレを無くし、自動車の乗り心地を快適にさせる。



各タイヤの内側／外側に計2個
4タイヤ×2個 = 8個／台



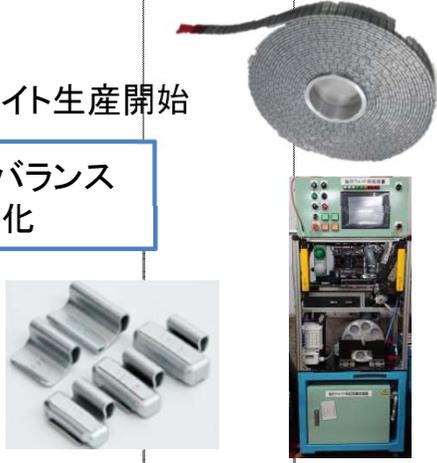
クリップ式バランスウェイト



接着式バランスウェイト

当社バランスウェイトの歴史

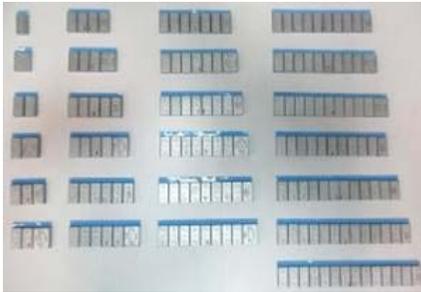
- '60年代、トヨタから国内向け鉛バランスウェイトを全量受注
- '98年、環境負荷物質の鉛を使用しない鉄バランスウェイトを生産開始
- '18年、品番削減と作業性を向上させたロール式バランスウェイトを開発

	1963	1964	1966	1967	1980	1996	1998	2008	2018	2019
外部環境	高速道路開通 100km/h時代の到来 タイヤのアンバランス 修正が必要				トヨタ自動車がアルミホイールを初採用 		鉛使用 規制			
大豊工業	トヨタ自動車より受注 スチールホイール用 鉛バランスウェイトを生産開始 				アルミホイール用の クリップ式バランス ウェイト生産開始		鉄バランスウェイト生産開始 鉛に代わり鉄バランス ウェイトを量産化 		'18年 ロール式と 自動供給機を開発 	
	鑄造技術を保有し、軸受材料で 鉛を取り扱っていたことから バランスウェイト事業を開始									

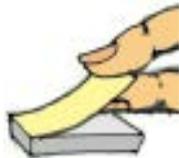
バランスウェイトの取組み

新型バランスウェイトの開発、量産化

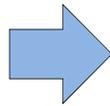
従来品



接着式バランスウェイト



必要品番を選び、治具に装着、剥離紙を剥がす



治具を使用し、バランスウェイトをホイールに装着

新型



ロール式バランスウェイト



自動供給機

自動供給機がロール式バランスウェイトを必要量に応じて切断し、ホイールに装着する。

ロール式バランスウェイトと自動供給機を開発

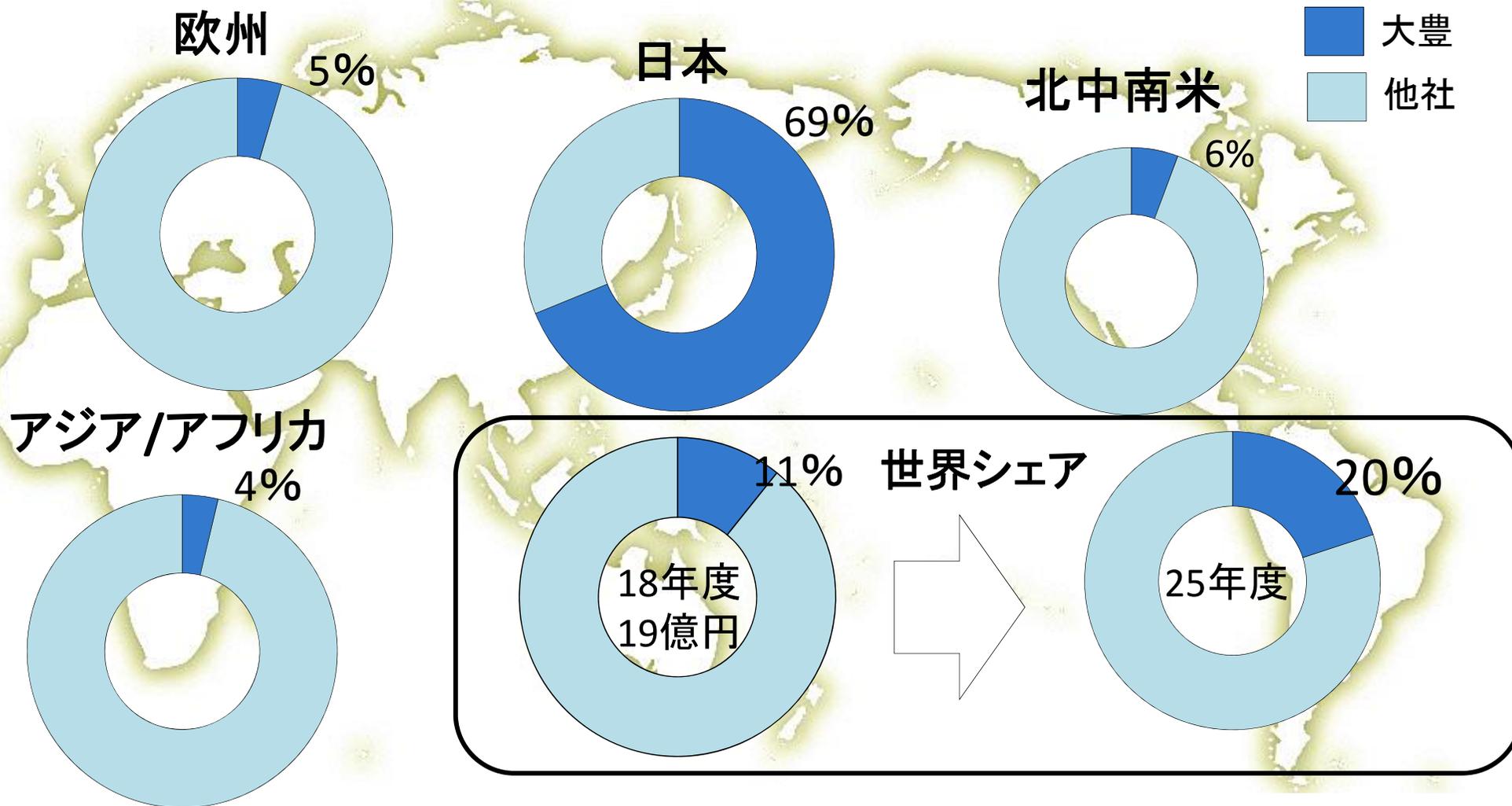
品番を大幅に削減(25品番⇒ 1品番)、自動化で作業性向上

在庫スペース 3割以上削減

バランスウェイトの状況

当社による独自調査

当社バランスウェイトのシェア(18年度)



日系メーカーだけでなく、海外メーカーへ拡販
バランスウェイトの世界シェア拡大を図る

VISION2025に向けた取組み

VISION2025

VISION2025～地球環境とミライの社会に貢献～
トライボロジーをコアに、保有技術の深化とイノベーションをもって
Only One製品でグローバルNo.1を目指す

地球環境に貢献する
イノベーション

激動の時代に際し
チャレンジし続ける人財

グローバルに供給する
革新的なものづくり

世界・社会

地球規模と局地的な課題が混在
～温暖化・異常気象・高齢化・労働人口減 等～

政治・経済

自由貿易と保護貿易で混迷
新興国の台頭

クルマ

移りゆくモビリティの世界
～CASE, MaaSの進展～

科学・技術

Society 5.0
超スマート社会の到来



グループの持続的成長
～100年企業をめざして～

既存製品の深化・拡大と共に新規事業の柱を確立する

食糧危機 地球温暖化 IoT AI ロボティクス 電力創造 世界人口増加 国内高齢化 大気汚染 水質汚染
災害頻発と大規模化 宇宙開発

活用

すべり軸受

*Technical Improvement
Global Share Increase*

システム製品

Electrification

ダイカスト製品

Functional Application

造機・造型

*Advanced Equipment and Die
utilizing "Total Engineering Process"*

シーリング製品

*Advanced Sealing Design
and Material*

*Innovation
Start-up*

新製品
新事業

トライボロジー

ご清聴ありがとうございました。